

# アマダイ通信NO. 86

(Tile fish network letter)

2011年 山茶花咲く

## 知人・友人各位

日本の地震と津波、原発の後はヨーロッパの金融危機、そして今度はタイの大洪水と、次々と「危機」が世界を襲います。かつて自然災害、飢饉、疫病などの「危機」は音もなくやって来て、突然人間を襲い、多数の命を奪ったのですが、今やそのメカニズムはかなり解明され、対策が打てるようになりました。失われる人命も格段に少なくなり、情報も瞬時に伝播、世界中から救いの手が差し伸べられます。チェニジア、エジプト、リビアと中東で続く独裁政権が打倒されました。多少は人間も賢くなっていると確信して良さそうです。読者の皆さんと共に、多少とも賢くなり、人の役に立てればと思います。

## ◎ユ-ロ危機と民衆蜂起…世界は新たな地平へ？

8年前、ブッシュのアメリカがイラク攻撃を始めた時、ステージⅢb（大腸の組織外にがん細胞が浸潤〔Ⅲ期a〕、リンパ節にも転移し〔Ⅲ期b〕、0期からⅣ期〔肝臓、肺、脳など他臓器に転移〕まで6つあるステージの5段階で、殆ど治癒する見込みなし）の大腸癌を手術、点滴の器具を引きずりながら、フセインにも、ブッシュにも肩入れすることが出来ず、複雑な思いでテレビを見ていた。お茶の水駅前の東京都教職員共済組合三楽病院で、30センチ開腹、大腸を30センチと患部周囲のリンパ節9か所を切り取る大手術で、リンパ節3か所への癌の転移を確認。完治と言われる5年を過ぎて、丸8年以上元気でいられるのは癌細胞が転移した部分をきれいに除去、肝臓や肺、脳などへの転移を防げたということで、大学の後輩でもある三楽病院の主治医の阿川外科部長と、三鷹寮の先輩の河野名誉院長にはいくら感謝してもしきれない。

まさか治癒する見込みなしの重度の進行癌だとは露知らず、阿川先生の許可を得て、五月の連休は予定通り娘と呑気にスペイン旅行を楽しむ。抗がん剤の集中治療を一か月先延ばししての許可は、冥土の土産にせめてスペインでも見せてやろうという配慮だったか？真っ赤なアマポーラが咲き乱れ、牝牛の如き巨大なヒップで迫力たっぷりに踊るベテランフラメンコダンサー、一世紀を超えて今なお成長するガウディのサグラダファミリのスペインは、至る所工事中でタワークレーンが林立、バブル経済の様相を呈し、沈みっ放し経済の日本から来た身には眩しく輝いて見えた。

だが、EUに加盟、共通通貨ユーロを導入したことで、外国資本が流入、活況を呈したスペインのバブル経済も崩壊、今やギリシャの次はスペインかと、世界が固唾をのんで見守る。政治的な統合から、共通通貨ユーロを軸に経済的な統合へ突き進むEU。通貨を統合しながら、財政政策は国ごとにバラバラという矛盾が露呈して苦しみ、解体の危機も囁かれるが、むしろ更なる統合、財政政策統一への道をヨーロッパは歩むのだろう。

フランス革命でいち早く国民国家を形成したフランスを追いかけるように、封建国家ドイツが、そして都市国家イタリアが国民国家として一つに統一、悲惨な国家総力戦を繰り返したヨーロッパ。その愚を止めようと国家主権を制限、統合を進めて来たヨーロッパだ、

後戻りは出来まい。統合によって安い労働力と拡大した市場を獲得、大きなメリットを享受した独・仏の大資本も、もはやその特権を放棄することは出来まい。

思えば 46 億年と言われる地球の歴史上、人類の歴史は精々万年単位。その大部分を人類は他の動物や自然環境からわが身を守るために汲々とし、互いに戦い、時にその肉まで食い合いさえしたが、自分の肉体の外に、道具という生産手段を獲得し、それを効率化させることで生産力を拡大、「野蛮」から「文明」の段階に進化して来た。とりわけ産業革命以降この数百年間の発展は目覚ましいものがあり、それが又、逆説的にエネルギーや水、食糧といった人間居住環境としての地球の限界を明らかにし、残り 46 億年という地球の余命も解った。地球が灼熱の太陽に吸収される前に、人類は他の宇宙に新たな安住の地を見つけることが出来るか？人類が抱える長期、短期の問題を解決するためには、如何なる政治・経済システムが最適なのか？経済のグローバル化に伴い進む格差の拡大に異議を唱える民衆蜂起の延長の「世界革命」か？徐々に国家の枠を取り払う EU 型の国家統合の先の「世界国家」なのか？それとも第三の道があるのか？

### ◎我が意を得たり！・・・21 世紀の攻めの養生は心のときめき！

日本唯一の総合雑誌にして最高の部数を誇る！？隔月刊の、旧七帝大同窓会学士会の機関誌「学士会報」で、末期がんの患者を多く診て、東洋医学も導入した統合療法を試みる帯津三敬病院の帯津良一名誉院長の連載が続く。文中に、若き日に革命運動に身を捧げ挫折、30 歳まで学生、40 歳までフリーター、10 年間のサラリーマンを経て、50 歳で営業コンサルタントとして独立、50 代半ば過ぎにステージⅢb の大腸がん侵され、九死に一生を得て 8 年経過、七転び八起の🍀にとって、我が意を得たりの名言を目にする。

彼は心のときめきとは「生命の躍動(アンリ・ベルクソン)」であり、生命の躍動とは「内なる生命場の小爆発」で、生命場は小爆発を繰り返しながら、水位を上げて行き、「死」のクライマックスを迎え、大爆発を起こして死後の世界に突入する。小爆発を一回でも多く手にして、水位を十分に上げておいた方が死後の世界への突入が容易になる。これが 21 世紀の攻めの養生で、心のときめきの大事さを物語ると。

いつ死んでもおかしくない身なれば、これが最後の晩餐と思うと先ず夕飯でときめく。人生は旅であれば、日々新たなる「旅情」に浸りながら食べるが、旅情にときめきはつきもの。だがその比重ということになると晩酌に分がある。『漢書』の「塩は食肴の将、酒は百薬の長」を昔から範とし、塩分制限も休肝日も無用の長物。ビールの最初一杯の喉越しが、ときめきの最たるものと語る。毎週末休肝日とすべきか否か悩む🍀は、悩むのでは休肝自体がストレスになって意味がない、己の欲するところに従って矩を超えず(論語)だ！と、これを機に休肝日を止めることにする。何事も過ぎたるは及ばざるが如しで、飲み過ぎは禁物だが、適量なら細かいことは気にせず飲んだ方がストレスフリーでいい。

ときめきと言えば、何と言っても恋心だ。老いて益々盛んなピカソやゲーテの生涯を心から羨ましいと思うが、この道は相手が要ることで難しいと先輩は語る。人生は仕事と、その後のお酒と恋だという。可愛い孫娘が身近にいて、時々娘の残業支援と一緒に晩ご飯を食べ、お風呂に入るが、それだけだというのにその日は朝から浮き浮き、心ときめく。ときめきは異性に対する恋心からだけではない。血のつながった身内だけでもない、他人のために役に立てる！立ちたい！という時もときめく。距離、時間、場によって濃淡の差

こそあれ、恋心は人間愛と言い換えてもいいかも知れない。人の役に立つという点でそれは起業を含めた仕事に繋がり、「世界革命」と叫んだ時の高揚感にも通じる。生きる意欲、難局に直面した時のファイトの源泉ともなる。ときめいてますか？

### ◎直下型地震で5～8割断水！

久しぶりに社民党政策審議会長の阿部知子衆議院議員に会う。駒場で2年下、彼女があの顔で、「干場さん全共闘のこと教えて下さい！」と駒場寮の我がML派の活動部屋に駆け込んで来てから早40数年。電源開発社員と井水利用専用水道システムと、都条例による新規の井戸掘削禁止の特例として区長の力を借りて公立学校教職員共済組合関東中央病院に井水利用専用水道システムを作りたいのどと、前社民党代議士の保坂世田谷区長の紹介をお願いし、区長に繋いで貰う。麴町中学校の時に中学生解放戦線を名乗り、我がML派の学生解放戦線の赤地に白抜きのコヒカンヘルメットを被っていたというが、直接接触はなかった。彼は高校進学の際まともな内申書を学校に書いて貰えず都立の定時制高校に進学、内申書裁判の傍ら教育評論家として活躍、社民党から衆議院議員に当選、三期務め、落選中の今春「震災対応」を旗印に世田谷区長に当選した。

直下型地震では首都の5～8割が断水するという。神戸では復旧に三か月かかった。電気は2週間で復旧したが、電気があっても水がなければ料理も出来ず、お茶もコーヒーも飲めず、赤ちゃんにミルクもやれない。水洗トイレもウォシュレットも使えず、手術も人工透析も出来ない。高度成長期の工業用水過剰汲み上げ、地盤沈下時代の遺物、都の井戸掘削禁止条例を撤廃し、病院や学校等の公共施設、駅ビル、ホテル、大規模商業施設等に井水利用専用水道を設置すれば、水道のインフラを二重にして、セキュリティを高め、地下水位上昇と液状化にも対応出来る。

取り敢えず、区内の拠点病院で現行都条例でも可能な径十インチの井戸を新しく設置、1日十立米の汲み上げ制限を、ポンプの能力一杯の百五十(年5万)立米まで認めるように都と交渉して貰う。23区区長会で新規井戸掘削禁止条例の廃止提案を検討して貰うように働きかける。逆に区長の方から電源開発に区内で小水力発電等のマイクロ発電が出来ないか？など幾つか面白い提案があり、検討させて頂くことになる。

### ◎の台湾紀行・・・「サンキュー台湾ぐるり周遊5日間」(トラピクス)

#### ④美麗島の夜は更に麗し

昨年末、食事時の飲代しか使わず、両替した1500台湾ドル(1台湾ドル3円)を200ドル残す「貧乏ツアー」を楽しむ。丁度一年前、台湾海峡の対岸、福建省アモイや泉州、客家の土樓巡り等をした。観光スポットのトイレは大分綺麗だったが、スポットを外れると悲惨で、公衆トイレでは清汚に関わらずチップを要求された。時に小銭がなくて我慢、入っても汚れと臭気で用を足さずに飛び出したりもしたが、台湾ではチップを要求されることもなく、並べてトイレは清潔で気持ちよい。ペーパーも結構用意されている。便器は跨式と坐式(洋式)があるが、跨式は金隠しが付く和式だ。大陸中国も東南アジアでも、股がってする便器は落とし穴が一つと両側に足置がついた平板なものだ。日本統治の影響か？

郊外だけでなく街中のセブンやファミマなどのコンビニが、トイレを解放、ウォシュレットが付くと更に嬉しい。ホテルの洗面やバスタブの止水栓も完備、持参のゴルフボール

を使いお湯を溜める不便さもない。食べ物も並べて美味しい。日月潭に限らず、観光地でしつこい土産物売りに煩わされないのも嬉しい。中進国から先進国の仲間入りを果たした台湾では、大陸と違い生産性の低い押売りなどしてられないか？そんなことを考えている間に、バスは人口80万人、台湾第四の都市、古都台南に着く。

台南担仔麵で知られるグルメの街だが、17世紀半ばから220年間都が置かれた。台湾の政治、文化、商工業の発祥地だ。郊外には新竹に続けと、半導体などのIT産業が集積、プラスチック関連の工場も高速道路脇に連なる。台湾で最も古い孔子廟やオランダ人が築いたプロビンテア城（赤嵌樓）を見学する。そのオランダを、日本人を母親に平戸で生まれた鄭成功が、アモイから打って出て追い出し、三代、21年間に渡り台湾を支配。大航海時代はコスモポリタンな時代でもある。その後清朝に支配が移り、日清戦争後日本に、日本の敗戦で中華民国支配に。国共内戦で敗れた蒋介石がアモイから逃げ込み、台湾海峡にアメリカ軍が入ることで、命脈を保った蒋介石は苛酷な軍事支配を敷く。韓国に比べ、台湾は日本に好意的と言われるのも、国民党支配が苛酷過ぎ、日本時代の方がまだましだったからという面もある。当然国民党の支配に反対し、身を挺して台湾の民主化、更に独立を求める運動も活発化。結果、蔣経国、李登輝と政権が代わるにつれ民衆の力に押され民主化が進み、2000年の総統（大統領）選挙で野党の民進党が政権を奪った。

台南から南に50キロ、人口150万人、台湾第二の都市、港町高尾へ。蓮池潭、港を一望する寿山公園を観光、夕食は海鮮料理。六合二路の夜市で猥雑なバザールを愉しみ、ホテルへ。市内を貫通する愛河の夜景が余りにも素敵で、カメラ片手にホテルを抜け出す。電飾で万艦飾りの遊覧船が川を行き交い、高層ビルや橋を引き立てる光線が川面を妖しく照らす。大きな器に盛られたカクテルのように七色に揺らぐ川岸の、公園の木々までがファンタジックに踊る。万華鏡のように、瞬時に化ける景色。この島を見たオランダ人が「フォルモサ！」と叫んだことから、「美麗島」とも称される港町の夜は麗しく更けゆく。

## ⑤明日は我が身？

3日目、台湾最大の港町高尾から百キロ、1時間半走り最南端墾丁へ。先端のガランピ岬の灯台は台湾最大。外壁には銃眼が開き、銃口は原住民に向けられていたと、ガイドの邱さん。道中太平洋岸へ抜けると綺麗な海岸線が続く。磯では釣り人が糸を垂れ、道路と海岸の間に海老や鰻の養殖場。漁港近くでは小さな船が定置網を引く。水を張った棚田が美しく広がり、ススキの穂の向こう、道路の上を鉄路が走る。いつか見た景色だ。既視感に囚われるが、同じ冬でも故郷白神の冬の海の厳しさはない。この地の厳しさは夏にある。7、8月はお客様が少なく大変ですと、邱さん。

風光明媚なリゾート地にドームが二つ。南湾原子力発電所だ。台湾の原子力発電所は北部に二基、南部に一基あり、四基目は国民の反対で建設途中で廃棄された。原子力発電所の地元には日本と同じく補助金などの利益誘導があるが、賛否を問う住民投票もあり、反対派がいると建設は難しい、と邱さん。台湾は民主主義国家なのだと胸を張る。

駐車場に「台湾省」ナンバーの車。人口百万人超の台北、高尾、台中三市の直轄市以外の車は台湾省ナンバー。国民の9割は台湾独立派だから、「省」を外し「台湾」にしたらと言うと、中国政府以上にアメリカが反対すると邱さん。アメリカにはどっちつかずの現状維持が自らの存在を主張でき、台湾に武器を売るなどの利益があるという。有事の後楯の

アメリカが賛成しない以上、高々車のナンバープレートでも、大陸との決別を意味する「台湾省」からの省外しは簡単には出来ない。しかし中国が経済力をつけ軍事大国化する一方、アメリカが衰退していけば、台湾の命運はどうなる？軍国主義への傾斜を強めるかに見える中国の周辺国は今、中台関係の帰趨を、明日は我が身と注視する。

灯台からの帰路、広場で中国政府の弾圧の残虐さを訴える気功集団「法輪功」のキャンペーン。二十人ほどの集団が写真を掲げて静かに座り込む。台南でも高尾でも同じキャンペーンを見た。大陸の観光客の多い所にはいつもいるんです。台湾は民主主義ですから何でも言えるんです。自由が一番いいと、邱さんは屈託ない。台東を經由、美しい海岸線を320キロ、4時間半かけて北上、北部の基隆に続く第三の港町、北回帰線より少し北の港町花蓮へひた走る。花蓮のホテルで夕食。広東料理を美味しく食べる。隣の宴会場が賑やかだ。結婚式かと思ったのだが、会社での人付き合いが薄いという割には、会社の忘年会だという。中国人の正月は旧暦で、二月に盛り上がるが、会社の新年は一月だ。

## ⑥台湾でも乗り換え案内！

4日目の朝も早い、7時半出発。大理石の加工工場を見てから太魯閣（タロコ）峡谷へ。背後の山から切り出される原石を加工するには日本の東京ダイヤモンドと浪花鋸の二社しか作れないダイヤモンドカッターが欠かせないと、説明のお爺さんは流暢な日本語でしきりに感謝。日本が資本財を提供し、台湾が安い土地と労働力を提供、加工品を輸出する三角貿易の現実を実感。花蓮は台湾の石材工業の中心だが、対岸のアモイは中国の石材工業の中心。アモイ港には輸出を待つ石材が山と積まれ、客家土壘見学の高速道路脇には石材工場が軒を連ねる。日本の石材屋はアモイに進出、日本から石材工場は消えた。

60年代に蒋介石の号令で、失業対策の意味もあり、5万人の労働者を動員、大理石の山を穿ち、212人の犠牲の下に、5年で完成したという中部東西公路。絶景の峡谷を縫って走り、台湾中部の東西を6時間で結ぶ。土産物屋の二階で昼食を取る。田舎料理というのが味は中々。ビール1本120台湾ドルでは足りず、紹興酒コップ一杯120台湾ドルも愉しむ。

花蓮に戻り、特急列車で台北まで220キロ2時間の旅。新幹線でないのは残念だが、普通席でもゆったり、乗り心地はいい。車窓には太平洋の大海原が広がる。社内販売のサービスも行き届き、トイレも日本式に飛行機と同じで綺麗だ。チベットの天空列車とは快適性で雲泥の差だ。日本の協力で作られ、台北と高尾間4百キロを最速1時間半で結ぶ新幹線は、本数が少なくビジネス客の利用が少ないので赤字だが、潰す訳にも行かず、政府が金を注ぎ込み国営鉄道化しつつあるという。大都市には地下鉄が整備され、台湾島を一周する在来線特急は10分おきに発着、遅れても3分未満と定時性が高い。IT大国でIモードも浸透しつつある。乗り換え案内を始めてはどうかと、帰国後旧知のジョルダンの佐藤社長に提案すると、技術提供してもうやってるよとのこと。

## ⑦極悪か中か？三民主義の原点から

墾丁で一度も使われない飛行場の脇を通る。利権絡みで陳水扁政権が作ったという。日本でも農道空港というのが作られ、使われないまま立ち消えになったが、利権絡みの公共事業はどこでも避けられないのか？陳水扁元総統は在任中の収賄容疑で15年の刑で服役中だ。賄賂を取り海外に百億円の隠し資産を持ち、日本の田園調布にもマンションを

持つという。それでも邱さん、大陸と違って台湾はまだいいですよ、金を貰って約束したことは必ず守りますからと、変に自慢する。会社勤めで大陸の工場の責任者をしていた時、不良品をはじく筈の大陸の社員が良品をはじいて横流し、同じソニーの工場に納められて酷い目にあった、大陸の中国人は信用できないと、まだ怒り心頭だ。

道中見かけるガソリンスタンドはほとんどが国営の中国石油だが、1リットル90円と日本より3割以上安い。因みに酒、タバコ、塩はまだ専売だという。国民党独裁時代は軍隊も党の軍隊で党営企業も多く、未だに国民党は世界最富の政党と言われる。台北では新装なった故宫博物院を駆け足で一時間半見学。蒋介石がめぼしい宝物を全部持ち出したので、北京の故宫博物館は裏抜けの殻だが、こちらは三ヶ月に一回展示が替わるので、解説するのも大変と、邱さん。台湾最後の夜は梅子で海鮮料理を食べる。ビール中瓶、グラスの紹興酒とも150台湾ドルと高く、トラピクスだけでなくJTBなども使う名物レストランということで期待するが、味は今一で残念。

最終日は昼過ぎのフライトで午前中、蒋介石の中正紀念堂へ。中国革命の父孫文の国内諸民族平等と帝国主義の圧迫からの独立（民族主義）、民主制の実現（民権主義）、平均地権・節制資本による国民生活安定（民生主義）という三民主義の理想を裏切り、共産党に負け逃げ込んだ台湾で残虐の限りを尽くしたから、「中正」ではなく「極悪」紀念堂と改称すべきか？孫文の三民主義の理想に照らせば大陸の現状も決して誉められない。孫文の革命の原点に還ることで大陸中国と台湾のこれからも自ずと見えて来ないか？

## ◎最近のロシア情勢・日ロ関係、日本外交のあり方について

### …三鷹クラブ第99回定例懇談会のご案内

今年最後の第99回三鷹クラブ定例会は、丹波 實さん（昭和32年入寮、元駐ロシア大使）に再度ご登場願って、最近のロシア情勢・日ロ関係についてお話を願うとともに、正しい日本外交のあり方について論じていただきます。

戦後の日本とロシア（旧ソ連を含む）との外交関係において最も困難な課題は、北方領土問題です。ロシア側は、一貫してこの問題について、かたくなな姿勢を崩していません。過去60年の歴史の中で、唯一度解決への曙光らしいものが見えたのは、丹波さんが補佐された橋本龍太郎首相とエリツィン大統領との二度にわたる会議を経て、平和条約締結に向かったの一連の合意がなされた1998年当時だったように思います。

その後ロシア側は、プーチン体制に移行し、この将来へのわずかな希望の灯もかき消されてしまったように思えます。特に昨年はメドベージェフ大統領の国後訪問、今年は東日本大震災後マカロフ参謀総長による軍事力強化計画の言明など、北方領土への執着が一段と強められているかの事態も見られています。

丹波さんには、前回（2004年2月第51回定例会）ロシアから帰国され、退官直後の段階で、日ロ関係についてのお話をお聞きしました。以来7年余になりますが、丹波さんは、ロシア事情に精通した外交専門家として、「日露外交秘話」（中央公論新社2004年）を刊行したのを手はじめに、さまざまな場面で発言してこられました。また、日本エネルギー経済研究所に就任し、エネルギー問題に関連するお仕事もされておられます。

最近の問題については、本年5月24日付の読売新聞「論点」に、困難な情勢下での日本の主張を貫く方途について論じておられます。また、9月には、前著と同じく中央公論

新社から「わが外交人生」を出版されました。新著では、ロシア関係のみならず、丹波さんが携ってこられた外交上の重要問題について、率直かつ明快に記述され、私の友人・知人がしばしば登場されていることもあり、大変興味深く読ませていただきました。

対ロシアのみならず、中国、韓国との間でも領土を巡る問題がこのところ一段とクローズアップされるようになり、日本の外交姿勢が問われる事態となっております。今回丹波さんから将来に向かつての貴重なご示唆を頂ければと存じます。

余談だが、私は北海道稚内高校卒で、樺太生まれ札幌育ち（札幌東高卒）の丹波さんに親近感を持っています。第 96 回定例会では、札幌西高卒で稚内に居住経験のある大久保尚武さん（昭和 33 年入寮、積水化学会長）に御登場いただいたばかりで、期せずして、北海道出身の二人の俊秀から親しくお話を伺うことが出来、喜ばしい限りです。（平賀記）

日時：平成 23 年 11 月 8 日（火） 18 時 30 分～21 時（開場は 18 時）

場所：学士会館本館 203 号室（千代田区神田錦町 3-28 Tel 03-3292-5931）

会費：5000 円（会場費、夕食代・飲み物代、通信費など込み）

定員：70 名（先着順：定員を超えない限り特に連絡は致しません）

申込先：平賀・干場 Fax 03-5689-8192 電話 03-5689-8182

（有）ティエフネットワーク Email: [tfn-hoshiba@blue.ocn.ne.jp](mailto:tfn-hoshiba@blue.ocn.ne.jp)

二次会：別途 近くの中国料理店 SANKOUE N で、講師参加で行います。

### ◎17th AIKOM welcome party

10 月 9 日の日曜日、アイコム(交換留学)生歓迎会で、4 月の新入生歓迎会以来久しぶり、三鷹寮へ。8 月の勝部日出男君（S43 年入寮）の事務所兼住居、三代同居の 6 階屋上庭園で、ギターや英語の歌も入り、踊りも加わった、賑やかなアイコム生送別パーティー以来の寮生との交歓。三鷹クラブからはいつものように寿司桶を差し入れ、終わってから和食ファミリーレストラン華屋与兵衛で、勝部君と🍀がスポンサーになって二次会。留学生を主に 50 人ほどの寮生が交流、盛り上がる。

寮生が飲み過ぎて羽目を外し、寮のグラスを一枚割ったので、教養学部から禁酒令が出たとかで、ジュースで乾杯。飲み食いに金を使っちゃいけないとも言われたとかで、三鷹クラブ差し入れのすし以外、食事は院生会の手作りカレーのみ。アルコール抜きでも随分盛り上がったように見えたが、予定の 9 時半より早く 9 時前に華屋与兵衛に集まって来て店を慌てさせたのは、アルコール抜きでは盛り上がり欠けたからか。その分華屋で沢山飲み食いしたようで、いつもの二次会より🍀の財布が軽くなった。

旧制一高の伝統を引き継ぐ自治寮から、大学管理の「東大三鷹国際学生宿舎」に変わって以来、寮生同士の交流・切磋琢磨の機会は格段に少なくなった。大学生を子供扱いする今回の学部の「禁酒令」で、益々その機会が減らないか？禁酒ではなく上手に飲むことが大事だ。学部の馬鹿な禁酒令の悪影響を補い、世界中から若き才能が集う寮生諸君に、多少とも交流とグローバルなネットワーク作りの機会を提供出来たとすれば嬉しい。金は出さないが口だけは出し、幼稚な禁酒令を出すようなことを学部は止めて欲しい。

年寄りの冷や水だが、四十年前、東大闘争真っ盛りの時に三鷹寮委員長になり、7 年の在寮中学生運動で 7 回警察に捕まり、未決で足掛け 3 年刑務所に拘置された身でも、三鷹

寮のネットワークを頼りにここまで糊口を凌ぐ。その恩返しを少しでもと思う。現在の三鷹寮は600人と倍の規模になり、女性を含めグローバルに人材が集まる。素敵なグローバルネットワークを作り、彼らがグローバルに活躍する手助けを多少とも出来れば嬉しい。

翌日は寮の仲間とゴルフなので遅くならないように帰ろうと思ったのだが、勝部君の車とタクシーを乗り継ぎ帰宅したら、午前様。5時起きで10人3組で回った小川カントリー、61、50と久しぶりの110台の大叩きは寝不足のせい？！

### ◎昨晩はありがとうございました、宮本洋之です。

以下は、08年入寮で、ハーバードに一年留学していた宮本君（法学部）のメールです。

干場さん、昨晩の三鷹寮のパーティーに久しぶりに参加しました、宮本洋之です。留学から帰ってきて久々の三鷹寮でしたが、寮生が変わって少し変化したところもあった一方で、干場さんを含め変わらずの方々ともお会いでき、楽しく過ごさせて頂きました。どうもありがとうございました。また三鷹寮のOBメンバーで事務所にお邪魔する機会があれば嬉しく思います。今後は日本におりますので、またどうぞ宜しくお願いします。

### ◎「後姿の北京」・・・第9回41・42・43年入寮合同同期会のご案内

今回は趣向を変え、冒頭、1992年以来中国山西省大同市を拠点に黄土高原緑化と貧困解放に取り組み、年間150日以上ディープチャイナで活動するNPO法人「緑の地球ネットワーク」の高見邦雄事務局長（S41年入寮）に、北京から西へ3百キロ、高速道路で最短3時間の「辺境」から見た最新中国事情「後姿の北京」を語って頂きます。文Iの弁護士から理Ⅲの医師まで三鷹寮は人材豊富、素敵なソリューションネットワークに参加、実りの秋のひと時を楽しく過ごしませんか？（呼掛人：勝部日出男、宮脇義秋、干場革治）

日 時：11月25日（金）6時半～ 会 費：七千円

場 所：ホテル「銀座ラフィナート」（中央区銀座1-26-2, 電話 03-3561-0777）

申込先：干場まで（封筒刷り込み先へ、メール又はfaxかtelで）

### ◎❁スキークラブ？参加者募集！（終りに）

昨シーズンは震災のためスキー場が早々と閉鎖、9回という不本意な結果に終わりましたが、今季は5月の連休の奥只見丸山スキー場での滑り納めまで、毎週末!?（日帰りスキー）決行の予定です。群れるのが好きで、単独行が不得手な❁ですので、同行の士を求めます！昨シーズンは稼げなくて大変だったと思いますが、水上・奥利根の宝台樹スキー場ゲレンデ脇の蕎麦屋・幸新のお婆ちゃん、美味しいお新香を仕込んでくれましたか？モツ煮とコンニャク田楽、地酒の水芭蕉、メの鴨セイロも宜しく！第一回はスキー場オープンの12月17日（土）、二回目は3連休中日の24日（土）の予定です。9時JR武蔵野線東所沢駅前（車の場合は近くの豊山パーキング）集合、冬装備の車に相乗り、田舎の味を楽しんだ後、（シルバー半日券で）4時半のリフト終了まで蕎麦屋・幸新のお婆ちゃんの皴の数ほど滑り、幸せ新たに湯檜曾川の畔の露天風呂を楽しみ帰ります。仕事の疲れとストレスも、星空に消える湯煙の如くです。気合いを入れて斜面に飛び込み、エッジを効かせて右に左にとスキーをコントロールすることで、リスクを取ってチャレンジする精神が培われます!?!費用は込み々7千円程です。同好の士を求めます！再見！